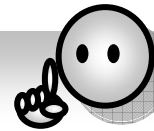


後半のチーム学習



内容説明

第3週目に前半のチーム学習の規範を考えましたが、うまく機能していたでしょうか？ 後半のチーム学習は、個人学習とチーム学習を統合した形態へと進みます。

チームの共通する問題に対して課題を分担し、それぞれのチームメンバーが異なる切り口からチームの成果に貢献していきます。イメージにすると次のようになります。



特徴：
全員が一致団結して共通の課題を
囲んで作業を進める。すなわち、一
人ひとりが共通の学習成果に貢献
するメンバーとして位置づけられ
る。この時、興味関心を分散させず、
全員が共同で具体的な対象を解決
していく。

特徴：
チームが共通するテーマに立脚し
ながらも、一人ひとりが異なる課題
に取り組む。それぞれの学習成果
は、共通テーマを深める重要な視点
の1つとなる。

Give and Take はGiveから始まる

複雑な教育問題は、一人の力で解決できるものではありません。問題に取り組むためには、同じ学校の人、地域の人、あるいは全国的レベルでお互いに協力し、情報を提供することが大切です。わが国の教育行政の発想には、教育活動を活性化するために学校間に競争原理を持ち込もうとしている例もありますが、社会での情報化の進展から考えるとまったく逆行しているといっていいいでしょう。むしろ教育の課題について学校間での協力体制をどのように構築するかが今後の課題です。そのためにはまず自分で実践してみて、その成果を他の学校でも利用できるような形式にしてインターネットなどを通じて流通し、競争ではなく協調を目指すことが大切です。この場合に、よく Give and Take といわれますが、まず自分から他の人に Give することが大切です。

以上を踏まえて、後半のチーム学習でどのような規範を作ればチームがよりよく学習できるでしょうか。別紙「07-3 チームの規範のロゴを作るう2(チーム)」にまとめてみてください。